

第 7 回日本ソーシャル・イノベーション学会大会論文賞選考に関する講評

論文賞選考委員長 新川達郎

第 7 回日本 SI 学会 第 7 回大会には、27 本の論文発表の応募があり、数本は残念ながら論文提出がありませんでしたが、選考委員会を大いに悩ませる力作がたくさん発表されました。以下、論文賞選考に当たったの所感と結果を報告いたします。

今年の論文の特徴は、一つには、大変重い社会課題に真正面から取り組んだ実践研究が多く見られたことです。若者や子供たちの問題、民主主義や市民参加の実践、コミュニティ形成、教育や福祉、自然環境などをテーマに、またそれらがクロスする領域に、果敢に切り込んでいます。

二つには、今日的な社会課題に対して、SI らしい接近を試みていることです。今大会の共生というテーマもそうですが、従来の実践や研究を組み替える新たな視点が、対象や方法論、また問題の捉え直しなどに見られました。

三つには、実践と理論とがバランスよく論じられている点です。自分自身の課題や社会的課題そしてその実践を真摯に取り上げながら、その一方では、理論的な研究の視点を忘れず、また検証方法においても定量的な研究手法、あるいは定性的な研究手法を踏まえて検証に耐えられる実証を積極的に取り入れていました。

四つ目に、最後に指摘しておきたいのは、SI 研究として、インパクトのある論文が多く、その中に多くのヒントが得られたことです。そこには多くの知的刺激と勇気をいただきました。

改めて、私たちの学会が目指す実践研究の質が大きく向上していることを実感させられた、第 7 回大会の論文でした。

さて審査に当たっては、1 SI 研究としての問題設定の妥当性や、論文の実践あるいは理論面の開拓性や新規性、2 論文タイトルと研究内容の整合性、そしてリサーチ・クエスチョン（RQ）や仮説の適切性とその検証の客観性や十分性、3 結論の論理的妥当性 SI らしい結論の導き方、4 先行研究や文献引用の妥当性、この 4 つを基準として選考を進めました。

審査に当たっては、ブラインドで査読を行い、複数の評価者による一次評価、そして合議による 2 次評価を行いました。審査に当たった選考委員が、それぞれに悩みながら、最終的に合意することができました。その結果は以下の通りです。

論文賞

選考委員による慎重な審査の結果次の 2 点が選ばれました。

日本ソーシャル・イノベーション学会第 7 回大会論文賞奨励賞

佐藤佳亮 武蔵野美術大学大学院造形構想研究科

『地域とともに創る害獣の地域資源化 ～共生に向けた食文化デザイン～』

本論文は、害獣としてのキョンを地域資源化するという観点で、人と自然との共生を実践的に試み、それを研究として丁寧にまとめた作品であり、今後の展開への期待も込めて高く評価されました。発表では方法論やそれによる分析が丁寧に披露されました。奨励賞を契機として更なる研究展開が望まれます。

日本ソーシャル・イノベーション学会第7回大会論文賞

岡崎貴志 同志社大学大学院総合政策科学研究科

『地域課題の同時解決に向けたソーシャル・イノベーションの実践研究～福祉×農業×環境の多機関連携による障害者の社会参加と伝統産業の継承モデル～』

甜茶のための伝統的なよしず（ヨシでできた覆い）づくりを、障がい者の福祉のため作業として導入し、自然生態系の維持を視野に入れつつ、地域と福祉と農業が伝統技術を通じて結び付けられる、SIらしい実践研究を、理論的にも深く検討しており、論文としての確にまとめることができている点が、高く評価されました。

（以上）